

Policy

I 自然と共生し安全・安心で 穏やかに心やすらぐまちづくり

快適で持続可能なまちに

市が取り組む施策の根幹は、全ての市民の安全・安心の確保です。生命や財産を守り、穏やかに、そして質の高い生活が送れるよう、安心感や快適さが得られるまちづくりを推進します。

防災対策を充実し、災害に強いまちづくりを推進するとともに、全ての市民が個人として尊重され、健康で自分らしく、生き生きと暮らせるまちを目指します。

また、生活を支える社会インフラについては、上下水道の安定的なサービスの提供をはじめ、道路網を充実させ、利便性の向上を図ります。

都市機能と各地域拠点に関して、中心市街地の活性化と併せ、それぞれの地域の特色を生かしたまちづくりを推進するとともに、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考え方のもと、生活に必要な都市機能の維持と各地域拠点間を結ぶ公共交通ネットワークを充実させることにより、持続可能なまちづくりを

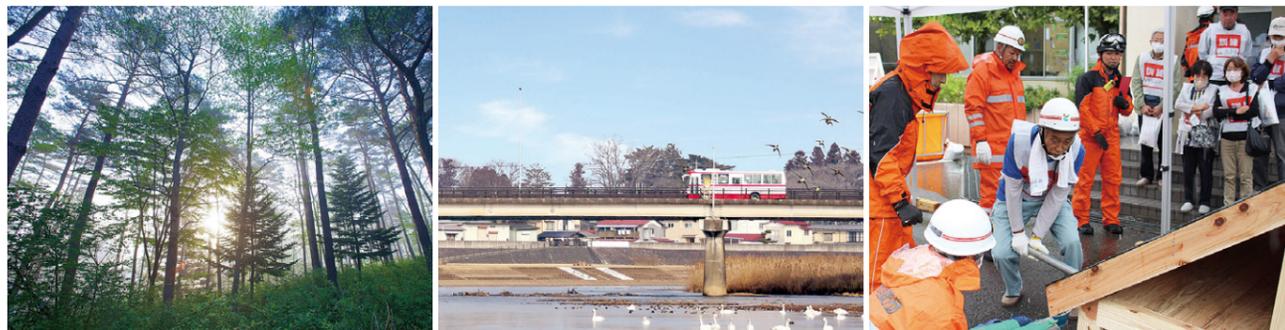
政策の分野	個別政策
1 防災・安全	1 防災・減災対策の推進 2 防犯・交通安全対策の推進
2 健康・医療	1 健康づくりの推進 2 地域医療の確保と救急体制の充実
3 福祉・生活	1 福祉の充実と権利擁護の推進 2 生活支援の充実
4 社会インフラ・環境	1 社会基盤の充実 2 環境保全とゼロカーボンシティ・循環型社会形成の推進

■主な施策(抜粋)

- 防災対策の充実
- 防犯対策の充実
- 健康づくりの推進
- 地域医療の確保
- 地域福祉の推進
- 低所得者福祉等の充実
- 良好な土地利用の推進
- 自然環境の保全

■代表的な指標(抜粋)

指標名	現状値 令和6年度	中間目標値 令和12年度	目標値 令和17年度
女性防災指導員配置率	19.3%	50.0%	70.0%
健康寿命	男性78.90年 女性83.53年 (令和4年)	81.54年 85.11年	82.84年 86.03年
認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	7,880人	11,300人	14,700人
人口1人当たりの公共交通年間利用回数	3.93回/人	4.39回/人	4.68回/人

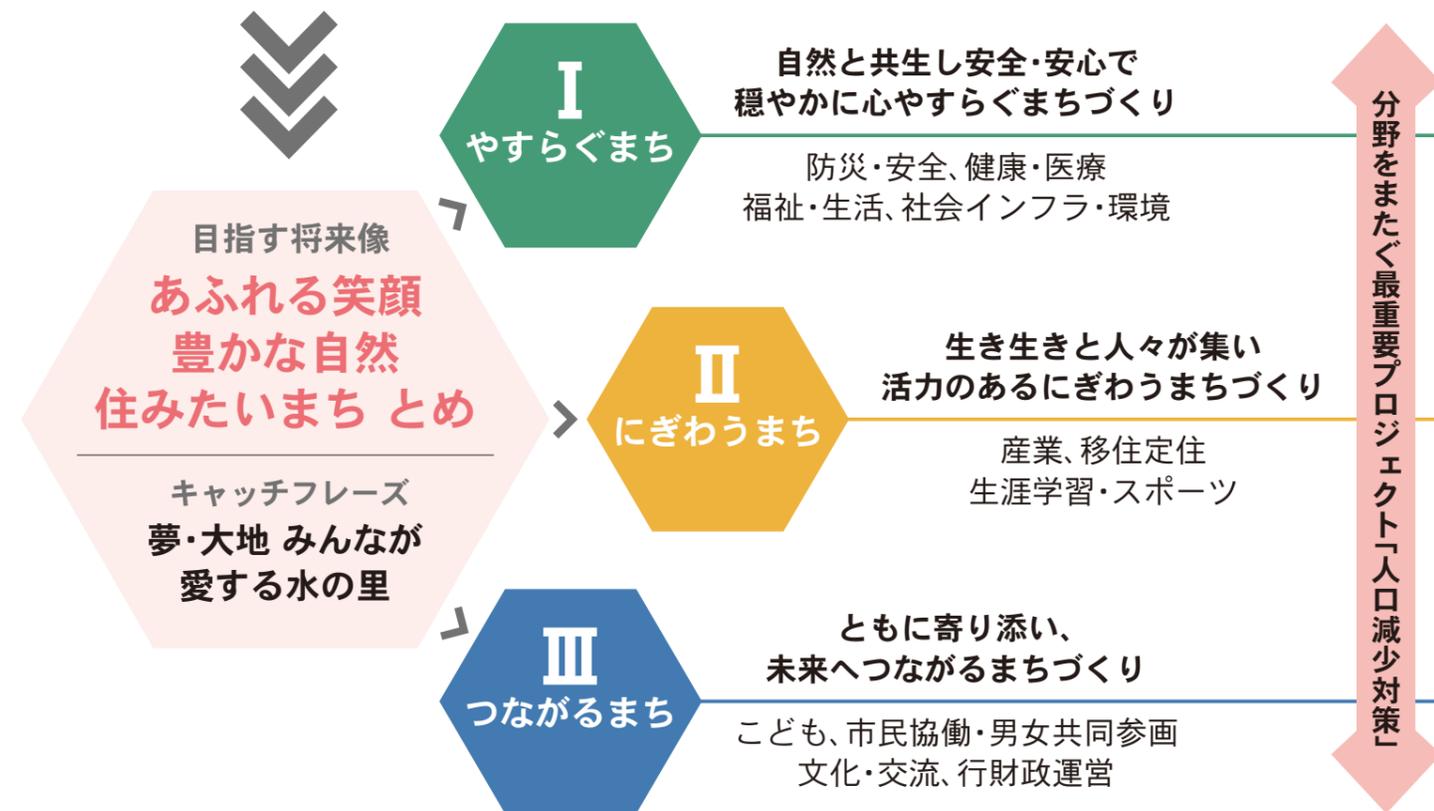


体系と政策

将来像「あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち とめ」の実現を目指して、3つのまちづくりの基本政策により、各分野における施策を展開します。

基本理念

協働による登米市の持続的な発展



市民の声を計画に

第三次登米市総合計画は、令和5年度から準備を進め、宮城大学の徳永幸之特任教授をはじめ、識見者や公共的団体の役職員などで構成する登米市総合計画審議会で審議し、市議会とも議論を重ねて策定しました。

市の最上位計画である総合計画の策定に不可欠なのが市民の皆さんの声です。住民基本台帳から無作為に抽出した市内在住の18歳以上の5千人を対象に「まちづくり市民意向調査」を実施しました。そのほか、中高生へのアンケート調査や市民ワークショップ、パブリックコメントなどを通じて、多くの人の意見を聴いて策定しています。



1 ワークショップではどんなまちにしたいかなどのアイデアを出し合った。2 意向調査の回答率は38.8%で前回より6.7ポイント増加。3 審議会では、さまざまな視点で審議された。

